

～見直しましょう、あなたの担当事業～

第Ⅰ章で紹介したように、人権教育の内容には「**人権意識を高める**」「**豊かな人間性を育てる**」「**人権が尊重された雰囲気や環境をつくる**」の3つがあります。これらの内容から、今実施している担当事業を見直してみませんか。

第Ⅱ章では、そのための3つの事業プログラム例と、3つの人権教育の内容につながる活動事例、学習事例、配慮事項を紹介します。これらをもとに担当事業を見直すことで、人権問題を直接取り上げた事業はもとより、取り上げていない事業でも、一人一人を大切にしたい人権に関する学習につながります。

第Ⅱ章の構成

プログラム編

- 見直そう、あなたの青少年教育事業…………… 6
- 見直そう、あなたの家庭教育支援事業…………… 7
- 見直そう、あなたの高齢者対象事業…………… 8

事例編

- 取り入れようあなたの事業へ…………… 9
 - 「豊かな人間性を育てる」ための活動事例…………… 9
 - 人権問題を中心として「人権意識を高める」ための学習事例…………… 10
 - 「人権が尊重された雰囲気や環境をつくる」ための配慮事項…………… 11

事業実践例

- 人権教育の内容を取り入れた実践例…………… 12

見直そう、あなたの青少年教育事業

どんな活動が人権教育につながっているのでしょうか。

- ①「豊かな人間性を育てる」➡人や社会、自然とかかわる活動をとおして、他人を思いやる心や生命を尊重する心を育てます。(ボランティア活動、自然体験活動など)
- ②「人権意識を高める」➡高齢者や障害者、子どもとの交流活動を相手の立場や考え方を理解することをねらいに実施することで、様々な人権問題について考えるきっかけとなります。
- ③「人権が尊重された雰囲気や環境をつくる」➡一人一人の個性を尊重した活動により、人から大切に思われる経験をとおして、自尊感情を高め、他人も大切に思う気持ちを育てます。

プログラム例

きらり体験 ジュニアリーダー講座

(例:P9-1=9ページの1番目の事例)

ポイント

回数	内容	場所	
1	開講式:「今日からよろしく!!」 ～いろいろな自己紹介で 仲間づくり(アイスブレイキング)～	公民館 研修室	仲間づくりの活動で、良い人間関係を築きましょう。 (P9-1)
2	「自然の声をきこう」 ～山の中で自然観察を楽しもう～	野外活動 センター	自然体験活動で、自然の厳しさや恩恵を学び、自然や生命を大切にする気持ちを育てましょう。 (P9-4、13)
3	「夏休み子どもキャンプに協力」 ～担当班の子どもたちが 憧れる先輩になろう～	野外活動 センター	子どもたちと共に活動することで、責任感や思いやりの気持ちを育てましょう。また子どもの人権を考えるきっかけにしましょう。 (P9-6、P10-4)
4	「高齢者とふれあおう」 ～会話やゲームをとおし いろいろなことを学ぼう～	高齢者 福祉施設	高齢者の豊かな経験・技能・知恵にふれることで、高齢者に対する尊敬の気持ちを育てましょう。 (P9-8、P10-5)
5	「フィールドワーク:まち発見」 ～誰もが住みよいまちを目指して～	公民館 及び市内	共生のまちづくりを考えることで、互いを尊重し助け合うことの大切さに気づくようにしましょう。 (P10-2)
6	「ジュニアリーダー交歓会」 ～アイデアを出し合い 企画運営しよう～	野外活動 センター	企画運営することで、他の考えを尊重し公正さを重んじる心を育てましょう。 (P9-9)
7	閉講式:「講座をふりかえろう」 ～私たちのできることを考えよう～	公民館 研修室	講座全体をふりかえり、仲間やかかわった人の存在のありがたさに気づくようにしましょう。(P9-15)

見直そう、あなたの家庭教育支援事業

どんな活動が人権教育につながっているのでしょうか。

- ①「豊かな人間性を育てる」➡参加者の仲間づくりの活動や、自分の子どもを含めた多くの子どもとのふれあい活動をとおして、個性を認め合う心や他人を思いやる心の大切さに気づきます。
- ②「人権意識を高める」➡子どもとのかかわり方やコミュニケーションのとり方を見直す活動が、「子どもの人権」について考えるきっかけとなります。
- ③「人権が尊重された雰囲気や環境をつくる」➡温かな雰囲気での活動をとおして、参加者同士の交流を深めながら、相手の意見を尊重した活発で率直な意見交換が可能となります。

プログラム例

元気が出る 子育てわくわく講座

ポイント

回数	内容	場所	ポイント
1	開講式：「子育て井戸端会議」 ～参加者同士いっぱい話して 元気になろう～	公民館 研修室	井戸端会議で、参加者同士の交流を深め、相手の意見を尊重しようとする気持ちを育てましょう。(P9-1、10)
2	「親子でチャレンジ PART1」 ～親子で畑を耕し、 種まきをしよう～	農園	土にふれ、種をまくことで、自然に感動する心を育てましょう。(P9-2、5)
3	「あなたにとって子育てとは」 ～子どものほめ方、叱り方～ (講話)	公民館 研修室	ほめ方、叱り方を学ぶことで、子どもの人権を考えるようにしましょう。(P10-4)
4	「子どもにとっての読書」 ～読み聞かせの技を 身に付けよう～	公民館 研修室	読み聞かせが、家庭で実施されるきっかけにしましょう。親子のふれあう時間が増えます。(P9-5、P10-4)
5	「子どもと携帯電話」 ～あなたの家庭では どう使わせますか～	青少年 教育施設	携帯電話の使い方を話し合うことで、インターネットを使った人権侵害を考えるようにしましょう。(P10-12)
6	「親子でチャレンジ PART2」 ～栽培した作物で 収穫祭をしよう～	農園及び 公民館 調理室	自分で栽培した作物を食べることで、作物への感謝と生命を大切にすることを育てましょう。(P9-2、5)
7	閉講式：「子どもとのコミュニケーション 大作戦」 ～子どもとのかかわり方を考えよう～	公民館 研修室	講座全体をふりかえり、これからの望ましい子どもとのかかわり方を考えましょう。子どもの人権を守ることに繋がります。(P10-4)

※1、7回目のプログラムは、「親学習プログラム」参照(栃木県教育委員会 H18.3 P12、28)

見直そう、あなたの高齢者対象事業

どんな活動が人権教育につながっているのでしょうか。

- ①「豊かな人間性を育てる」➡子どもたちに昔の遊びを教えるような交流活動や、ボランティア活動などをおして、自尊感情を高め、他人を思いやる心の大切さに気づきます。
- ②「人権意識を高める」➡自分たちがいつまでも健康で生きがいをもって生活することをねらいとした活動をおして、「高齢者の人権」について考えるきっかけとします。
- ③「人権が尊重された雰囲気や環境をつくる」➡温かな雰囲気での学習活動をおして、参加者同士の交流を深め、人とのかかわりの大切さを再確認することができます。

プログラム例

みんな生き生き シルバー講座

ポイント

回数	内容	場所
1	開講式：「仲間をつくって 楽しく参加するために」 ～レクリエーションで仲間づくり～	公民館 研修室
2	「大自然にふれよう」 ～新緑の那須高原を ハイキングしよう～	那須高原
3	「子どもたちとふれあおう」 ～子どもたちに昔の遊びを教え隊～	保育園
4	「さわやかスポーツ教室」 ～輪投げで、 心も体もリフレッシュ～	体育館
5	「交通安全教室」 ～正しいルールを知り、 自転車に乗ろう～	体育館
6	「歩いて地域探訪」 ～ゴミのないまちを目指して、 歩いて探検～	公民館 周辺
7	閉講式：「輝いて、生活するために」 ～自分たちができること (役に立つこと)を考えよう～	保健 センター

楽しく参加するためには、他人を思いやる心や個性を認め合う心が大切なことに気づかせましょう (P9-1、10)

野外活動で大自然にふれ、自然や生命に感動する心を育てましょう。 (P9-13)

教える活動で、生きがいづくりとともに、自尊感情を高めます。また子どもの人権を考えるきっかけにしましょう。 (P9-7、P10-4)

ルールを守って行うスポーツ活動で、公平さを重んじる心を育てましょう。 (P9-11)

命を守るための交通ルールを学ぶ活動で、生命を尊重する心を育てましょう。 (P9-4)

ボランティア活動で、自尊感情を高めるとともに、他人を思いやる心を育てましょう。 (P9-12)

講座全体をふりかえり、生きがいをもって生活するために自分たちができることを考えるようにしましょう。高齢者の人権を守ることに繋がります。 (P10-5)

取り入れよう あなたの事業へ



「豊かな人間性を育てる」ための活動事例は、これ以外にもたくさん考えられます。無理のない範囲で講座の中に取り入れましょう。備考欄を使って、今までの事業で実施したことがある活動や、これから取り入れられそうな活動を確認してみましょう。

「豊かな人間性を育てる」ための活動事例		備考欄
1	アイスブレーキング、レクリエーションなど参加者同士が交流し、仲間づくりにつながる活動。	
2	草花や野菜を育てるなどの栽培活動。また、栽培したものを鑑賞したり、食べたりする活動。	
3	犬、猫、うさぎなどを飼育する、動物とふれあう活動。	
4	健康体操教室、生命にかかわる仕事をしている人の講話など生命の大切さを感じる活動。	
5	親子料理教室など親子のふれあい活動。	
6	小学生と高校生でのゲーム大会など、異年齢集団でのふれあい活動。	
7	高齢者の保育園訪問など高齢者と園児の交流活動。	
8	高齢者や障害者との交流活動。	
9	グループで何かをやり遂げたり作り上げたりする活動。	
10	作品発表、活動報告など、ほかの人の考えや個性にふれる活動。	
11	ルールを守りながら進めるスポーツ活動やレクリエーション活動。	
12	公民館清掃や駅前清掃など奉仕活動やボランティア活動。	
13	ハイキング、自然観察など自然とふれあう活動。	
14	美術館見学、音楽鑑賞など文化や芸術にふれる活動。	
15	仲間やかかわった人への感謝の気持ちに気づくふりかえりの活動。	



「人権意識を高める」ための学習事例は、人権問題ごとにさまざまな学習方法が考えられます。講話、シンポジウム、ディベート、フィールドワーク、疑似体験などから、ねらいにせまるため効果的な学習方法を選び、講座の中に1つでも2つでも取り入れましょう。備考欄を使って、取り入れられそうな学習事例を確認してみましょう。

人権問題を中心として「人権意識を高める」ための学習事例		備考欄
1	よりよいコミュニケーションを考えるワークショップや講話。	
2	共生のまちづくりなどをテーマにしたフィールドワークや計画書づくり。	
3	家庭や職場で根強く残っている男女差別の解消を目指したワークショップ。DV、セクシャルハラスメント、ストーカー行為などの女性の問題をテーマにした講話。	
4	いじめ、体罰、児童虐待など、子どもの問題をテーマにした講話。子どもとの接し方を考えるワークショップ。	
5	介護を要する高齢者への虐待、就職に際しての差別など高齢者の問題をテーマにした講話。高齢者との交流活動。高齢者疑似体験。	
6	障害のある人が地域の中で自立した生活を送るために必要なこと考える講話やワークショップ。アイマスクなどの疑似体験。	
7	同和問題を正しく理解するための講話や現地視察。差別落書、結婚差別などの解消に向けた講話や自分ができることを考えるワークショップ。	
8	アイヌ民族の歴史や文化の理解を深めるための交流活動や講話。ムックリの演奏、アイヌ文様トレースなどの体験活動。	
9	外国人への入居・入店拒否や就労に際しての差別など、外国人の問題をテーマにした講話やパネルディスカッション。	
10	HIV感染者・ハンセン病患者等に対する偏見や差別をテーマにした講話やワークショップ。国立ハンセン病資料館見学。	
11	就職に際しての差別、悪意のある噂の流布など刑を終えて出所した人への差別をテーマにした講話。	
12	有害な情報の掲載、少年被害者の実名・顔写真の掲載などインターネットによる人権侵害をテーマにした講話やディベート。	
13	マスメディアの過剰な取材や興味本位の報道によるプライバシーの侵害など、犯罪被害者等の人権をテーマにした講話。	



「人権が尊重された雰囲気や環境をつくる」ための配慮事項は、これ以外にもたくさん挙げることができます。1つでも多くの事項を配慮して、学習者にとって心地よい学習環境をつくりましょう。備考欄を使って、事業を実施するときに確認してみるとよいでしょう。

「人権が尊重された雰囲気や環境をつくる」ための配慮事項		備考欄
1	多くの人の目にとまるように、案内のチラシや広告にさまざまな工夫がされている。(チラシの内容、配布方法、配布先など)	
2	学習内容・学習量が、学習者の実態を踏まえて配慮されている。	
3	学習内容に合った会場が確保されている。	
4	会場内のバリアフリー化、手話通訳、座席の配置など、障害者・高齢者等への配慮が十分されている。	
5	学習者の実態や学習内容に合わせて、照明や室温が調節されている。	
6	会場や受付場所などの案内が、わかりやすく表示されている。	
7	BGMや花など、学習者の緊張がほぐれるように工夫されている。	
8	視聴覚機器を使用する場合、映像の明るさ・画面の大きさ・画像のゆがみ・音量・角度などが調整されている。	
9	受付名簿に漏れや誤りなどがいないか、確認されている。	
10	当日参加者の受付名簿(氏名記入用紙)が用意されている。	
11	資料に著作物を使用する際、著作者の了承を得ている。	
12	資料の文字の大きさは適切で、見やすい資料となっている。	
13	カタカナ用語には、日本語やその意味が補足されている。	
14	準備物や配付物などが多めに用意されている。	
15	休憩場所が用意されている。	
16	学習支援者に人権上配慮してほしいことを伝えている。	

人権教育の内容を取り入れた実践例

青少年教育事業

「とちぎユースボランティア研修会」
～子どもたちとの有意義なかかわり方～

小中学生対象の事業にかかわる高校生リーダーとして、子どもたちの人権を尊重した行動やコミュニケーションの大切さについて、グループで考えました。



(栃木県芳賀青年の家)

家庭教育支援事業



(鹿沼市立清洲第二小学校)

「就学時検診時の機会を利用した親学習プログラム」
～子どもを育てる上で親が果たすべき役割～

子育てをしていく上で、子どもとどのようにかかわったらよいかを考えました。これが子どもの人権を考えることになります。また、グループで話し合うことが、良い仲間づくりにつながります。

高齢者対象事業

「さくら市菜の花学級」
～子どもたちに昔の遊びを教え隊～

園児に自分たちの得意な昔の遊びを教えました。園児とのふれあいや教えることでの喜びを感じて、自尊感情が高まります。また、子どもの人権を考えるきっかけにもなります。



(さくら市ほほえみ保育園)